

Abstract

国家建設と平和構築をつなぐ「折衷的平和構築論」の精緻化に向けて

上杉 勇司（早稲田大学教授）

国家建設のマクロな視点と平和構築のミクロな視点を架橋することが、本稿の目的である。国家建設と平和構築を「折衷的平和構築（Hybrid Peacebuilding）論」を用いて補強し、両者をつなぐメタ理論を形成する。紛争で分断された共同体あいだを往来し、上層での和平交渉と草の根の民衆のあいだを行き来し、両者をつなぐ「橋架け人」が集う「プラットフォーム」を形成することで、不断の対話をつうじた関係調整が可能になる。国家建設によって国際社会と現地社会をつなぐ「国際プラットフォーム」が形成され、それが現地社会内の平和構築の「国内プラットフォーム」と結びつくことで、両者の折衷の組み合わせを調整する対話の場が出現する。国家が「プラットフォーム」として機能することで、国家建設と平和構築の目的が重なりあい、両者のあいだの断層が架橋される。

『国際安全保障』第45号第2巻（2017年9月）55-74ページ。